

1 研究構想

(1) 研究テーマ

「おがわ学」の教材開発と実践
～授業時数特例校制度の効果的な活用～

(2) テーマ設定の理由

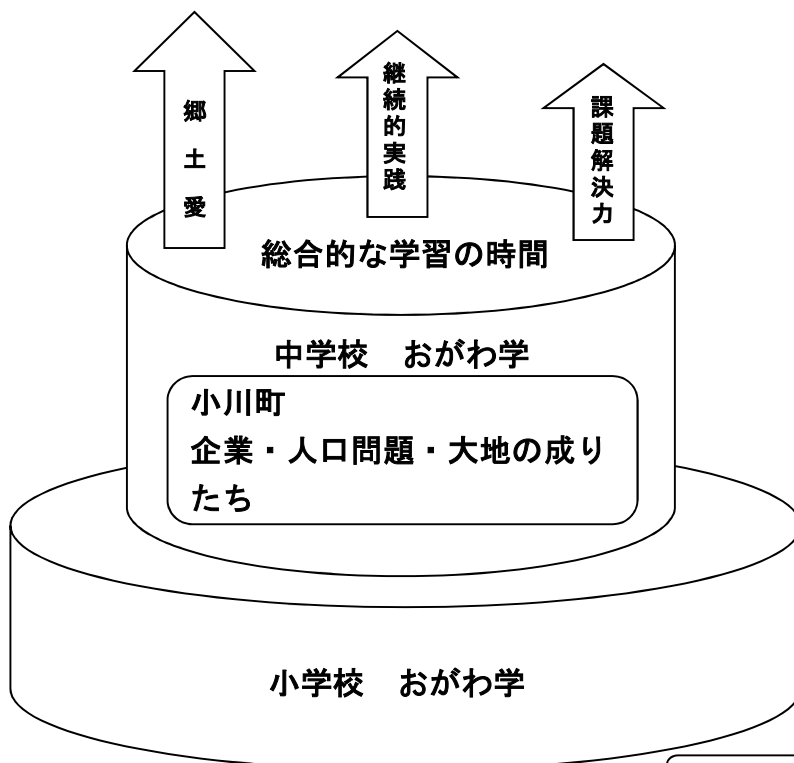
小川町及び本校で研究を進めている「おがわ学」は、教育課程に位置づけ、教科横断的に実践していくことが特徴となっている。しかし、教科担任制の中学校においては総合的な学習の時間以外の各教科の授業で行われる「おがわ学」の内容は、他教科の教員には見えづらくなっている。

そこで、本制度を活用し、「おがわ学」を全教員が理解し、積極的に関わることができるように本研究テーマを設定した。

(3) 研究仮説

- ① 「おがわ学」に係る教科の内容を総合的な学習の時間に位置づけることにより、教科の専門性と全教員による「おがわ学」の推進といった、2つの面が生かされる教育課程が実現され、個々の教員の意識や指導力によらず、「おがわ学」を継続的に実践していくことができるだろう。
- ② 「おがわ学」の確実な実践により、郷土に対する愛着や誇り、地域課題の解決に取り組む能力を育むことができるだろう。

(4) 全体構想図



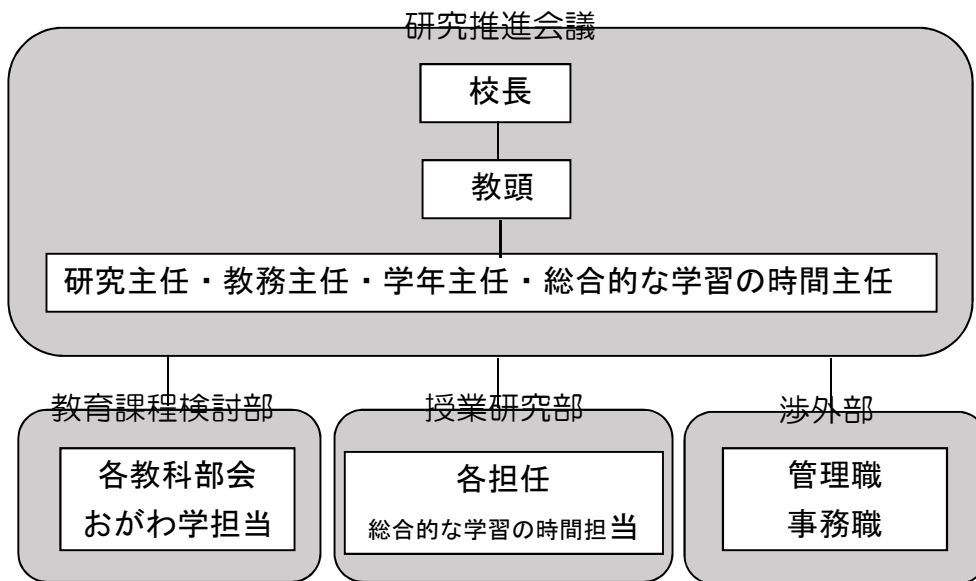
ゲストティーチャーとの授業
【大地の成りたち】



フィールドワーク成果プレゼン

2 研究内容

(1) 研究組織



※研究推進部

研究の方向性の検討や計画立案、実施等の調整を総合的に行う。

※教育課程検討部

各教科部会において、おがわ学で扱える教材開発を進め、その教材実施に向けて、総合的な学習の時間に位置づける。

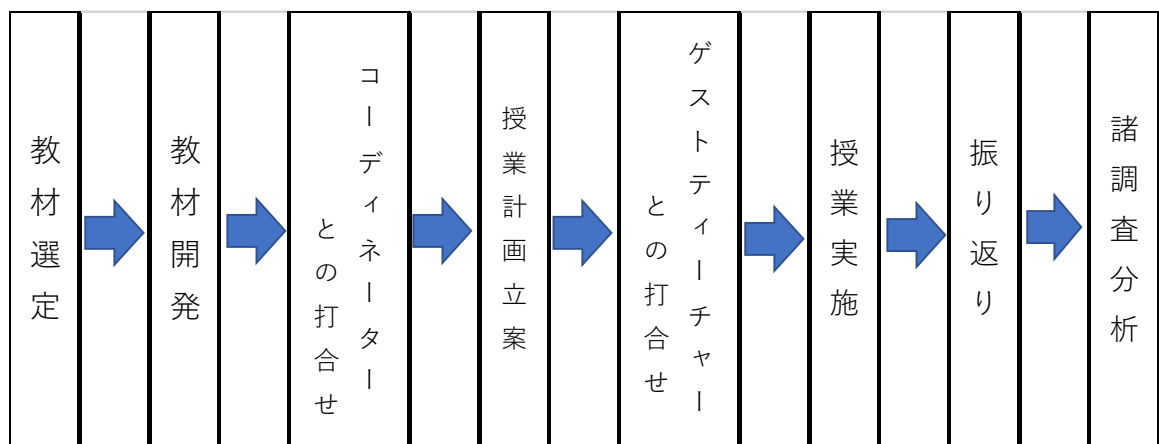
※授業研究部

各学年の総合的な学習の時間担当を中心として、各担任と連携しながら授業研究の計画・実施を行う。

※渉外部

おがわ学コーディネーターと連携しながら地域からゲストティチャーの選定及び依頼を行う。

(2) 研究の流れ



(3) 取組

令和4年度までに各教科で学習してきた「おがわ学」の時数を総合的な学習の時間の時数に上乗せし、教科横断的に一体として取り組むことで、主体的・対話的で深い学びの一層の充実を図るとともに、地域との関わりを自分事として捉え、課題解決能力や情報活用能力の育成を図る。

学年	教科	時数	従前の教科内での指導内容	総合的な学習の時間
1年	英語	2	学校案内 学校の歴史・環境について英語で表現	
	数学	1	小川町人口問題 データの活用	
	理科	2	大地の成りたち 小川町の地層・岩石	
	社会	1	小川町の歴史	
	美術	1	伝統文化・祭りの装飾 七夕まつり	
2年	英語	2	町の紹介 町の文化資源の英語での紹介作成	
	理科	2	小川町の生き物と環境 町の環境について学ぶ	
	社会	2	農業や諸産業の発達 小川町の農業 小京都小川と小江戸川越	
3年	国語	2	小川町と俳人金子兜太 小川の良さを俳句にする	
	社会	2	小川町の企業 ヤオコーの経営	
	英語	1	小川町の歴史案内	

(4) 生徒アンケート結果

・埼玉県学力・学習状況調査（質問紙調査）

「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっていますか」に「もっている」「どちらかといえばもっている」と答えた割合

	第1学年	第2学年	第3学年
埼玉県	56.9%	47.4%	39.4%
東中	70.3%	57.0%	53.1%

・全国学力・学習状況調査（質問紙調査）

①「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

②「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合

	①今住んでいる地域の行事に参加していますか	②地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
全国	38.0%	63.9%
埼玉県	36.1%	64.4%
東中	57.9%	67.3%

3 成果と課題

<成果>

- (1) 「おがわ学」に係る教科の内容を総合的な学習の時間に位置づけることにより、各教科で行われていた「おがわ学」の授業を多くの教員が関わりながら授業を作ることができた。
- (2) 総合的な学習の時間の授業時数を増やすことで、各学年で行う「おがわ学」の授業に十分時間をかけて行うことができた。
- (3) 「おがわ学」として身近な題材を用いることで、生徒は大変興味を持って学習に取り組むことができた。
- (4) 身近な題材であるからこそ、生徒は普段の授業より深く考えることができ、その中で、町の良い所に気付いたり、再発見をしたりしていた。
- (5) 「おがわ学」の授業を行ったあとの生徒の感想には、「次は〇〇がしたい。」や「町のために、これから私 【1年生作成パンフレット】 たちには何ができるのか」といった、自分が学びの主体となり、今後の学習へと繋がっていくような記述が多く見られた。



<課題>

- (1) 教材開発が特定の教科に偏ってしまっているので、町内他中学校とも協力しながら教材開発を進めていく必要がある。
- (2) 今後も「おがわ学」を続けていくことで、町へ今以上に関わり、その中で町の課題を見つけ、それを解決するために、何ができるかを考えることで、主体的に学ぶ力を身に付けていくことができるようになると思う。

